

園芸技術情報 《5月中～6月上旬版》

令和7年5月19日発行 第1号
【上川農業改良普及センター】
Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009
E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
HomePage: <https://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.html>



上川農改HPTトップ

全作物共通

暖かい空気に覆われやすいため、平均気温は高く、降水量・日照時間はほぼ平年並の見込みです（※気象庁1ヶ月予報より）。

- ①ハウス・トンネルは、気温の日格差が極めて大きい時期であるため、温度・水分管理に注意するとともに、急な強風や低温など、気象情報に注意しましょう。
- ②ハウスは、換気時間に注意し、夜間の温度が確保できるようにしましょう。
- ③露地野菜の育苗ハウスでは、定植前の苗を十分に外気に当て順化を行いましょう。
- ④過湿な状態での無理な機械作業は、土壌の透・排水性が悪化するので、ほ場を乾燥させ、碎土性が高まるように作業を行いましょう。

※農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。
なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
- ◆育苗ハウス内で農薬をペーパーポットやセルトレイにかん注処理または、粉剤や粒剤を処理した場合は、後作物の栽培を避けましょう。
- ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病害虫の発生を最小限に抑制しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域（旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町）向けに作成されています。
気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。
（不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません）
※掲載されている農薬情報は、令和7年4月23日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□■□ GAP手法の活用 □■□■□■□■□■ 【農作業安全編】 ー農作業を安全に行うためにー

- ・作業予定を事前に確認し合い、無理のない作業計画を立て、事故防止に努めましょう。疲労が蓄積しないよう定期的に休憩を取りましょう。
- ・一人での作業はできる限り行わないようにしましょう。
やむを得ず一人で作業する場合は、作業内容や作業場所を家族等に伝えておく、携帯電話を必ず所持する等、事故が発生した場合の早期発見のために必要な措置を行いましょう。
- ・緊急時に備え、作業員全員にエンジン停止方法や作業機械の動力遮断方法を周知しましょう。

園芸技術情報
 ≪5月中～6月上旬版≫

令和7年5月19日発行 第1号
 【上川農業改良普及センター】
 Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009
 E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage
<https://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.html>

作物名

トマト・ミニトマト

病害虫
 生理障害名

灰色かび病

発生状況

発生に注意

発生時期

6月上旬～



がくから感染した
 発病果実



葉の病斑とかび

発生の状況・要因

- ・曇天が続き湿潤な天候が続く場合は、予防的な防除が必要である。
- ・昼夜の温度差で、莖葉や果実が結露すると発生しやすくなる。

対 策

- ・結露が発生した際は速やかに換気して除湿する。
- ・枯れた葉や脇芽の除去は、なるべく晴天時に行う。
- ・葉数が確保されたら、下葉を除去して通気性を確保する。

＜防除の一例＞

予防散布で効果の期待できる剤

- ダコニール1000 1,000倍 収穫前日まで
 トマト（直径3cm以下を除く）：4回以内
 ミニトマト：2回以内

発生が見られた際に使用する剤

- ファンタジスタ顆粒水和剤
 2,000～3,000倍 収穫前日まで 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、
 倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

園芸技術情報
 ≪5月中～6月上旬版≫

令和7年5月19日発行 第1号
 【上川農業改良普及センター】
 Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009
 E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage
<https://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>

作物名

きゅうり

病害虫
 生理障害名

アブラムシ類

発生状況

発生に注意

発生時期

5月下旬～



葉裏（左）と葉表（右）に寄生する
 アブラムシ（令和5年6

発生の状況・要因

- ・ 葉の裏に群生し、吸汁害による茎葉の萎凋、排泄物による葉や果実の汚れが発生する。
- ・ ハウス内は温度が高く、露地よりも増殖が早いので注意する。

対 策

- ・ きゅうりでは葉裏の寄生により、葉表の褐変が見られるので、ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。
- ・ 薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。

〈防除の一例〉

- アドマイヤー顆粒水和剤
 5,000～10,000倍 収穫前日まで 3回以内
- * 天敵殺虫剤（ミヤコカブリダニ）使用の場合は
- ベネビアOD 2,000倍 収穫前日まで 3回以内
- チェス顆粒水和剤 5,000倍 収穫前日まで 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

園芸技術情報
 ≪5月中～6月上旬版≫

令和7年5月19日発行 第1号
 【上川農業改良普及センター】
 Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009
 E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage

<https://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.html>

作物名

きゅうり

病虫害
 生理障害名

ハダニ類

発生状況

微発生

発生時期

5月中旬～



隔離培地で越冬した
 カンザワハダニ



ナミハダニ

発生の状況・要因

- ・葉の裏に寄生し、吸汁により葉の表に白いかすり状の斑点が現れる。発生密度が高くなると葉全体が黄変枯死する。
- ・高温乾燥を好むため、ハウスでは露地よりも早く発生する。
- ・昨年発生がみられたハウスでは、越冬個体が発生する可能性が高い。

対 策

- ・ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。特に、昨年発生がみられたほ場では、早期（5月～）に防除を開始する。
- ・ハウスでは、侵入しやすい出入り口やサイドなどの開口部付近を中心に、よく観察する。
- ・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。

<防除の一例>

天敵殺虫剤への影響がなく、全ステージ（卵・幼虫・成虫）に効果のある殺ダニ剤。

- マイトコーネフロアブル 1,000倍 収穫前日まで1回
- ダニサラバフロアブル 1,000倍 収穫前日まで2回以内
- ダニオーテフロアブル 2,000倍 収穫前日まで2回以内

*ダニオーテフロアブルは銅剤散布後は防除効果が低下するので使用は避ける。また、ダニオーテフロアブル散布後、銅剤を使用する場合は10日以上あけること。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

園芸技術情報
 ≪5月中～6月上旬版≫

令和7年5月19日発行 第1号
 【上川農業改良普及センター】
 Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009
 E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage
<https://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.html>

作物名

ウリ類（すいか・メロン）

病虫害
 生理障害名

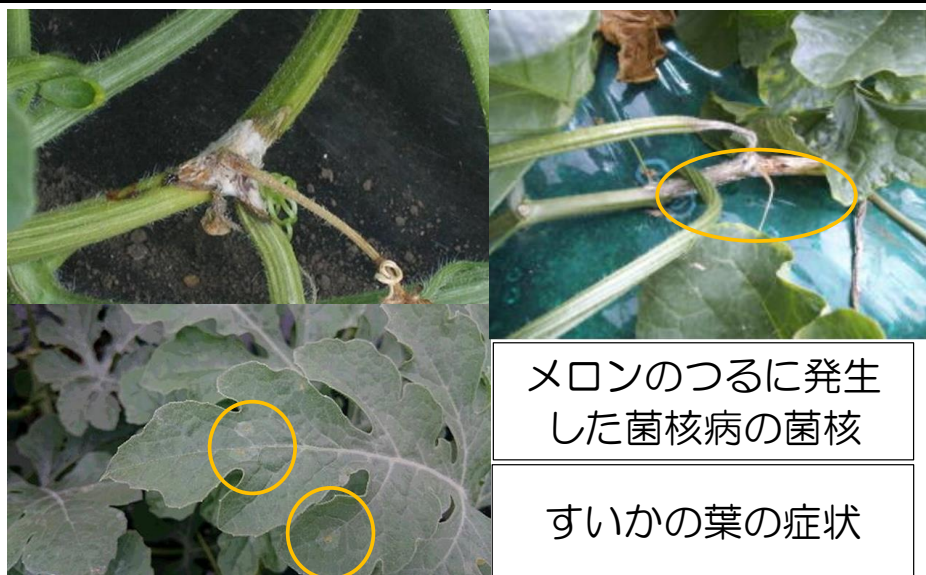
菌核病

発生状況

発生に注意

発生時期

5月下旬～



メロンのつるに発生
 した菌核病の菌核

すいかの葉の症状

発生の状況・要因

- ・ つるの分岐部や果実の花落ち部に白色のかび（菌糸）を生じて腐敗し黒色の菌核を形成する。
- ・ 20℃前後の比較的低温が続き、多湿の場合に発生が多くなる。
- ・ すいかやメロンでは、着果期を過ぎ茎葉が繁茂したハウスで発生が多くなる。

対 策

- ・ 換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。
- ・ 着果期前より予防防除を実施する。
- ・ 被害茎葉・果実は見つけしだい除去し、ほ場外へ搬出する。

＜防除の一例＞

●スミレックス水和剤

ミツバチへの影響日数 0日

すいか 1,000～2,000倍 収穫7日前まで 5回以内

メロン 2,000倍 収穫前日まで 3回以内

※スミレックスくん煙顆粒はメロンに登録がないため使用できません。

●カンタスドライフロアブル

すいか・メロン：1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内

ミツバチへの影響日数 0日

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、
 倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

園芸技術情報
 ≪5月中～6月上旬版≫

令和7年5月19日発行 第1号
 【上川農業改良普及センター】
 Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009
 E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage
<https://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.html>

作物名

いちご

病害虫
 生理障害名

灰色かび病

発生状況

発生に注意

発生時期

6月上旬～



発病果実(R5年)

発生の状況・要因

- ・施設栽培では、曇雨天が続き多湿な場合にまん延する。
- ・果実では、収穫期近くになると発病しやすくなる。

対 策

- ・多肥、密植としない。
- ・換気を行い、多湿を避ける。
- ・下葉や枯死葉を除去する。

＜防除の一例＞

- アフエットフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内
ミツバチへの影響日数 1日
- ショウチノスケフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 2回以内
ミツバチへの影響日数 1日
- アミスター20フロアブル 1,500倍 収穫前日まで 3回以内
ミツバチへの影響日数 0日

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、
 倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

園芸技術情報
 ≪5月中～6月上旬版≫

令和7年5月19日発行 第1号
 【上川農業改良普及センター】
 Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009
 E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage
<https://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.html>

作物名

いちご

病害虫
 生理障害名

アザミウマ類

発生状況

発生に注意

発生時期

5月下旬～



めしべ周辺に
 寄生しやすい



被害果(R5年)

発生の状況・要因

- ・花に成虫が寄生する。
- ・果実表面が褐変（ヒラズハナアザミウマ）あるいは着色不良や褐色となり、奇形果となる（ミカンキイロアザミウマ）。

対 策

- ・ほ場周辺の除草に努める。
- ・アザミウマ類は花の中にいるので、花の中をよく観察する。

＜防除の一例＞

- グレースア乳剤 2,000倍 収穫前日まで 2回以内
 ミツバチへの影響日数 1日
- モベントフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内
 ミツバチへの影響日数 1日

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、
 倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

園芸技術情報
 <<5月中～6月上旬版>>

令和7年5月19日発行 第1号
 【上川農業改良普及センター】
 Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009
 E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage
<https://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.html>

作物名

あぶらな科野菜全般

病害虫
 生理障害名

キスジノミハムシ

発生状況

発生に注意

発生時期

5月下旬～



キスジノミハムシ成虫
 (体長2～3mm)

こまつな葉部食害

発生の状況・要因

- ・成虫は葉、幼虫は根の表皮を食害する。
- ・5月下旬～6月は成虫の発生に注意する。

- 成虫期間：1～4ヵ月
- 卵期間：5～7日
- 幼虫期間：10～20日
- 蛹期間：3～15日

対 策

- ・成虫の多発時は防除効果が劣るため、ほ場をよく観察し、発生初期防除に努める。
- ・土壌施用粒剤は、土壌水分が極端に低下すると効果が劣るため、かん水管理に留意する。
- ・ハウス内外の雑草や作物残さを適切に処分し、発生密度を高めないようにする。

<防除の一例>

こまつな（非結球あぶらな科葉菜類 ※直播栽培に限る）

●フォース粒剤 4kg/10a は種前全面土壌混和 1回
 チンゲンサイ

●スタークル粒剤 6kg/10a 定植時土壌混和 1回

チンゲンサイ・ターサイ・みずな・こまつな（非結球あぶらな科葉菜類）

●モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 収穫7日前まで 1回

●フィールドマストフロアブル 4,000倍 収穫前日まで 2回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、
 倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

園芸技術情報
 ≪5月中～6月上旬版≫

令和7年5月19日発行 第1号
 【上川農業改良普及センター】
 Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009
 E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage
<https://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.html>

作物名

あぶらな科野菜全般

病虫害
 生理障害名

コナガ

発生状況

少発生

発生時期

5月中旬～

コナガ成虫



コナガ幼虫



幼虫による葉の被害

発生の状況・要因

- ・成虫の発生時期は例年より早く、ほ場への飛来が始まっている。
- ・あぶらな科ほ場への飛来、産卵が活発化し、幼虫の初発生、食害の早期化も予想される。

対策

- ・ほ場の観察に努め、初発を逃さないよう防除を開始する。
- ・防虫ネット（目合い1mm）を、侵入口となる隙間を作らないように設置する。
- ・品目により薬剤の登録内容が違っているので、ラベルを確認してから使用する。
- ・シアミド剤の防除効果の低下事例が確認されているため、複数系統の薬剤を用いたローテーション防除を実施する。

＜防除の一例＞

●スピノエース顆粒水和剤

こまつな・チンゲンサイ・ターサイ 2,500～5,000倍 収穫14日前まで 2回以内
 はくさい・キャベツ 2,500～5,000倍 収穫3日前まで 3回以内

●プロフレアSC

こまつな・チンゲンサイ・ターサイ・はくさい・キャベツ
 2,000～4,000倍 収穫前日まで 3回以内

●フィールドマストフロアブル

こまつな・チンゲンサイ・ターサイ・はくさい・キャベツ
 4,000倍 収穫前日まで 2回以内

※上記3剤は、コナガとアオムシ（モンシロチョウ）の同時防除が可能

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、
 倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

園芸技術情報
 ≪5月中～6月上旬版≫

令和7年5月19日発行 第1号
 【上川農業改良普及センター】
 Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009
 E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage
<https://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.html>

作物名

あぶらな科野菜全般

病虫害
 生理障害名

モンシロチョウ
 ヨトウムシ類

発生状況

少発生

発生時期

5月中旬～



幼虫と茎葉部の食害

発生の状況・要因

- ・モンシロチョウは、昨年の多発生および5月中旬以降の高温により、飛来が始まっている。
- ・モンシロチョウ、ヨトウムシ類ともに高温、乾燥条件により、あぶらな科ほ場への飛来、産卵が活発化する。
- ・発生密度の高いほ場では、茎葉部への加害のほか、出荷物への幼虫・フン等の混入によりクレーム発生の要因となる。

対策

- ・ほ場の観察に努め、初発を逃さないよう防除を開始する。
- ・ほ場周辺にある雑草をこまめに除去する。
- ・コナガ防除に準じて、防虫ネット（目合い1mm）を、侵入口となる隙間を作らないように設置する。
- ・成虫の飛来が目立ち産卵が多いほ場では、薬剤の茎葉散布を実施する。

＜防除の一例＞ ※モンシロチョウは「アオムシ」の登録があるものを使用

●フローバックDF・バシレックス水和剤

野菜類（あぶらな科各種） 1,000～2,000倍 発生初期（収穫前日まで） 回数制限なし

●アファーム乳剤

・ターサイ・みずな・はくさい	1,000～2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
・チンゲンサイ	1,000～2,000倍	収穫3日前まで	3回以内
・キャベツ	1,000～2,000倍	収穫前日まで	3回以内

※コナガと同時防除を行う場合、園芸技術情報「コナガ」に記載されている薬剤を使用する。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、
 倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。